

# 三水会会報

北里大学水産学部  
同窓会会報  
第 52 号

平成18年9月発行

編集者 内藤 文隆  
発行 三水会(北里大学  
水産学部同窓会)  
事務局 〒246-0031神奈川県  
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1  
TEL フリーダイヤル  
0120-873-135

<http://www.ajt.co.jp/sansuikai>  
E-mail [sansuikai@ajt.co.jp](mailto:sansuikai@ajt.co.jp)

緒方新学部長挨拶	P.1	18年度定期総会報告	P.5
柴理事長学長との意見交換会	P.1	若手研究者奨励賞受賞	P.6
環境生物学講座教授就任	P.2	「体育祭」「三水会助成」報告	P.7
井田先生卒業パーティー開催	P.3	太田先生を偲んで	P.7



「井田先生失業パーティー」



「18年度三水会定期総会」

## 『水産学部部長に就任して』

緒方 武比古

本年7月より前児玉学部長を引き継ぎ、その任を与えられました。水産学部には2回生4年次から30年近く在籍していますが、もとより影の薄い方ですので覚えておられる方も少ないものと思ひ、この稿を借りて、ご挨拶申し上げます。

さて、ご存知のように水産学部はこれまで一貫して教育・研究の改善や進展に努めてきました。近年ではFD研究会を毎年開催して組織的教育のあり方や教育技法を教員自身が学ぶとともに、学生による授業評価アンケートに基づいた授業の改善に取り組んでいます。卒業直前の諸君を対称にしている学部教育総合評価アンケートの成績も幸い少しずつ向上しています。昨年度のJABEE認定も教育プログラム改善の成果と考えています。既に伝統といえる教員の研究面での活躍もめざましく、学会賞受賞者の多数輩出や高い科研究費の獲得率はその裏付けています。



一方、昨今大学、特に地方大学は少子化の影響から極めて厳しい状況に置かれています。本学部も本年度入試は志願者数が昨年度を大きく下回り、今後の動向が心配されます。学部の教育力や研究実績をいかに受験生に伝えていくかが課題の一つです。創設30年を既に経、学部は大きな転換期を迎えていると認識しています。重責に身が縮む思いではありますが、学部教職員とともに明るい将来のため努力を重ねるつもりです。卒業生の皆様には様々な形で学部の背中を押して戴くようお願いする次第です。

## 『北里大学 柴理事長・学長との意見交換会』

14FF 副会長 西尾 徹

去る5月21日、北里学園本館において北里大学柴忠義理事長・学長と三水会との懇談会を開催し、水産学部の移転問題について考え方を伺うことが出来ましたので、主な内容を簡単に報告させていただきます。

検討の進捗状況は、現在棚上げ状態で白紙の状態に戻っており、7月に水産学部長が緒方先生に交代するため、7月の新学部長就任以降に本件の議論を再開する予定とのこと。

検討にあたっての判断材料はあくまで経営の観点で、学部の中身と持続性の観点を踏まえて検討を進める予定で、本年9月には方向性を出したいと考えているとのことでした。

新しい学部のあり方については、1学部2学科は必要と考えており、学生に持続的に来て貰うためには独自性が重要であり、内容・立地・他学部との連携等、様々な観点からどのような独自性を打ち出していけるかを検討したいとのこと。

立地については白紙ですが、PPA經由で学生の父兄からは子供的人格形成の面からも三陸に行かせて良かったとの意見が多いことも聞き及んでおり、当然検討にあたっての選択肢には入っているとのことでした。



〈柴理事長、学長を囲み三水会より長屋、長谷川、田代、西尾、高橋〉

本件につきましては、三水会といたしましたも、今後も検討経過等を見守りつつ、折りに触れて皆様にご報告させていただきます。



## 『環境生物学講座教授に就任して』



加戸 隆介

2006年4月に環境生物学講座の教授に就任致しました。社会環境が大きく変動しつつある昨今、水産学および水産学部もこの難局にどのような新しい未来を築いていくかが問われようとしています。そんな厳しい時期に教授を拝命し、その責任の重さをひしひしと痛感しております。

水産学部にて職を得て以来、キャンパスと隣り合う〈海〉という絶好の場を生かした研究を自分の研究の特長としてきました。これにもない、三陸の磯だけでなく東北太平洋岸の潮間帯で最も身近な動物であるチシマフジツボという寒流系のフジツボを主な研究対象に選びました。フジツボの付着を制御することは産業的にも重要な意味をもっていたからです。チシマフジツボの研究で明らかになったことは、三陸沿岸のような寒流域では、春に爆発的に増殖する珪藻の存在抜きには、フジツボをはじめとする動物達の生活が成り立たないということでした。たとえば、珪藻の増殖なしでは、このフジツボ幼生は孵化さえできな

いのです。まさに、基礎生産なくして動物の生存は成り立たないという厳然たる事実です。

磯にはごく普通にいたチシマフジツボでしたが、1998年の猛暑で突然ほとんどが死亡・脱落し、磯や岸壁の様子が一変してしまいました。これと同時に、このフジツボの殻を付着基盤にしていた動物も一緒に姿を消すこととなったのです。8年たった今も元の状態には復していません。この現象を通じて、生物群集の存在がきわめて微妙なバランスの上に成立していることを教えられました。将来の地球温暖化の影響を予想させるような出来事でした。

一方、日本にはいないはずのフジツボが東北から北海道南部までの広い地域にすつかり定着して、〈ごく普通〉のフジツボになっていく事実を2000年に発見・報告しました。その後の調査から、大船渡湾では、ここ20年ほどの間に北米からの木材運搬船に付着してやってきたらしいことが国際共同研究によりわかってきました。この例は、環境変化は人間自らが作り出していることを教えています。

このように、三陸での23年間だけでも沿岸の環境は大きく変わってきています。今後は、こうした海の複雑さや繊細さを社会に発信しつつ、教員や学生諸君の協力を得ながら、多様な水棲生物の生態学的役割の解明、保護、資源回

復や修復に向けた取り組みを一層発展させていきたいと考えています。今後とも水産学部の発展に皆様のご支援をお願い申し上げます。



『井田先生ご卒業記念パーティー  
開催』

3FA 小野 十美雄



2006年6月11日(日)上野東天紅において雨天の中、井田先生の水産学部ご卒業記念パーティーが開催されました。出席者は1期〜現役まで145名の研究室、潜水部、生物部各OB及びマーじゃん仲間らが集まり盛況の中、先生ご夫妻には壇上に着席していただきました。

司会者から開催宣言、先生のことこれまでの実績の発表の後、最終講義を参加者一同学生時代と同様に真剣に拝聴いたしました。講義終了後、司会者より卒業を認定するかとの問いかけに満場一致で卒業を認定され、井田先生もはれて北里大学より我々同様に追い出されました。

パーティーが始まり三水会の長谷川会長の乾杯の後、旧交を温める者、先生と昔話に花を咲かせる者、それぞれが学生時代に戻ったように和気あいあいと和やかに過ごしました。いよいよ残り時間も少なくなり、助教授の朝日田先生より卒業証書の授与があり、続いて2期の横堀氏、斉藤氏、西沢氏、川路氏より記念品の4期田中氏製作の木彫りのサケの贈呈が行われ無事に終了となりました。帰りには井田先生より出席者全員に各人の名入りの本のプレゼントがあり、全員大変喜んで先生の今後のご活躍を願いつつ帰路へと着きました。

尚、今回のパーティーを開催するにあたり、4期高橋利明氏、三水会 石井美華氏、9期中村栄氏、同 山尾修司氏、各氏が大変多大なご尽力を尽くされたことをご報告しておきます。



井田先生の最終講義をDVDに記録しました。希望者には送料込み2,250円でダビングします。3期 小野 (090-4205-5771) までご連絡ください。



『平成18年度三水会定期総会報告』

平成18年度定期総会が5月20日(土)本学白金キャンパス3号館3802会議室において開催されました。

理事・代議員46名が出席(内、委任状15名)で総会は成立いたしました。議長に水島純雄氏(3期増殖)、議事録署名人に畠山俊之氏(4期増殖)、小野陽子氏(24期増殖)を選出し議事に入り上程された前年度事業報告・収支決算書、18年度事業計画案・同収支予算案すべて原案通り賛成多数で可決されました。

総会において承認されました昨年度の決算・本年度の事業計画予算は次の通りです。  
同時に、三水会第10期代議員および理事の改選を原案通り、賛成多数で承認されました。

『平成18年度事業計画』

1. 会報の発行  
同窓生の動向、学部の現況、各種情報などを内容とした会報を平成18年9月と平成19年3月の二回発行する。
2. 「水産学部だより」の配布  
本学水産学部の発行する「水産学部だより32号」を増刷し、全会員に配布する。

3. 会員の現況の把握  
全学同窓会と連携し、不明会員の調査など名簿情報の正確性の向上に努める。

4. 第33回全国同窓会講演会の開催  
各キャンパスを順次巡って開催している全学同窓会講演会を、全学同窓会と共催で開催する。

5. 地区親睦会の開催  
地方で開催の親睦会など卒業生の集会において費用の一部を助成する。

6. 同期会等の助成  
同期会、講座別OB会および地方親睦会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

7. 懇談会の開催  
大学・水産学部在学生との懇談会を開催し、意見交換を行う。

8. 課外活動助成  
クラブの活動費及び大学祭、体育祭費用の一部を助成する。

9. 就職ガイダンスの開催  
各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行う。

10. 漁船海難遺児育英会寄付  
漁船海難等により親を亡くした

子弟に学費の助成を行っている漁船海難遺児育英会に対し寄付を行う。

三水会 第10期代議員推薦 (平成18年5月～平成21年5月)

【監事2名・理事20名】

卒業期	役職	氏名	
1	1FA	監事 伴 圭司	東京都
2	1FA	監事 大野 良樹	茨城県
3	2FA	会長 長谷川 一敏	山梨県
2	2FA	副会長 内藤 文隆	東京都
3	14FF	副会長 西尾 敬	東京都
4	1FA	理事 長屋 信博	東京都
5	3FF	理事 斎藤 勲	東京都
6	4FF	理事 伊藤 知尋	東京都
7	4FF	理事 町野 至	千葉県
8	5FF	理事 高橋 明義	岩手県
9	5FF	理事 水野 幸司	東京都
10	6FF	理事 川添 一郎	東京都
11	10FF	理事 黒澤 明	東京都
12	11FF	理事 石川 慶一	千葉県
13	11FF	理事 徳江 蒼一	埼玉県
14	16FA	理事 橋本 正毅	千葉県
15	16FA	理事 小林 博子	埼玉県
16	17FA	理事 田中 和隆	埼玉県
17	19FF	理事 松下 隆広	神奈川県
18	24FF	理事 高坂 友和	千葉県
19	24FA	理事 八島 洋二	神奈川県
20	25FF	理事 重光 康宏	東京都

【代議員 29名】

卒業期	役職	氏名	
1	1FA	代議員 石井 雄	神奈川県
2	1FF	代議員 石川 義行	東京都
3	2FA	代議員 田村 浩	埼玉県
4	2FA	代議員 田代 晋年	滋賀県
5	2FA	代議員 西村 直也	大阪府
6	3FA	代議員 水島 純雄	北海道
7	3FF	代議員 佐藤 敏行	新潟県
8	3FF	代議員 西村 哲典	富山県
9	5FF	代議員 福沢 昌茂	佐賀県
10	5FA	代議員 上田 俊郎	兵庫県
11	5FA	代議員 奥村 誠一	岩手県
12	5FF	代議員 佐々木 尊司	愛知県
13	6FF	代議員 河村 尚之	大阪府
14	6FF	代議員 堀内 岳郎	新潟県
15	7FA	代議員 柳澤 明美(武田)	北海道
16	9FA	代議員 中村 栄	東京都
17	10FA	代議員 中村 義幸(府録)	鹿児島県
18	10FA	代議員 松井 完二	大阪府
19	10FA	代議員 水石 博彦	東京都
20	10FA	代議員 中野 清隆	千葉県
21	16FA	代議員 堀山 直彦	茨城県
22	17FA	代議員 村山 雅一	東京都
23	18FA	代議員 良原 匡昭(梁)	大阪府
24	21FF	代議員 杉浦 智和	神奈川県
25	21FF	代議員 久保田 孝平	東京都
26	22FA	代議員 森垣 大助	静岡県
27	24FA	代議員 小堺 陽子	東京都
28	24FA	代議員 久保田 尚幸	神奈川県
29	28FF	代議員 安孫子 信吾	神奈川県
30	45A	代議員 畠山 俊之	千葉県

平成17年度収支決算書

支出の部		収入の部			
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
1. 事業費	2,000,000	3,171,523	1. 部会助成金	3,990,000	3,990,000
(1) 会報発行費	1,750,000	1,716,433	2. 会報郵送料補助	507,000	507,000
(2) 学部だより配布費	250,000	221,233	3. 全学講演会補助	1,069,158	1,069,158
(3) 同窓会の開催	800,000	898,751	4. 前年度繰越金	1,000	793
(4) 同窓会助成	200,000	158,000	5. 雑収入	500,000	511,424
(5) 文字・写真等の印刷費	100,000	142,200			
(6) 課外活動助成	200,000	200,000			
(7) 就職ガイダンス	250,000	192,844			
(8) 漁船海難遺児育英会寄付	50,000	50,000			
2. 運営・管理費	2,370,000	1,811,322			
(1) 印刷・通信費	420,000	388,547			
(2) 会費	700,000	371,750			
(3) 会議費	250,000	203,450			
(4) 事務用品	100,000	78,846			
(5) 旅費	50,000	55,750			
3. 予備費	97,158	1,101,455			
(1) 1FA入団費	-	12,300			
(2) 次年度繰越金	97,158	1,089,155			
合計	6,067,158	6,084,377	合計	6,067,158	6,084,377

平成18年度予算(案)

支出の部		収入の部	
科目	予算額	科目	予算額
1. 事業費	4,250,000	1. 部会助成金	4,020,000
(1) 会報発行費	1,800,000	2. 会報郵送料補助	522,500
(2) 学部だより配布費	250,000	3. 全学講演会補助	1,300,000
(3) 全学講演会の開催	1,300,000	4. 前年度繰越金	1,069,155
(4) 同窓会の開催	200,000	5. 貯金利息	1,000
(5) 同窓会助成	200,000	6. 雑収入	100,000
(6) 文字・写真等の印刷費	100,000		
(7) 課外活動助成	250,000		
(8) 就職ガイダンス	250,000		
(9) 漁船海難遺児育英会寄付	50,000		
2. 運営・管理費	2,370,000		
(1) 印刷・通信費	420,000		
(2) 会費	700,000		
(3) 会議費	250,000		
(4) 事務用品	100,000		
(5) 旅費	50,000		
3. 予備費	312,655		
合計	7,032,655	合計	7,032,655

『若手研究者奨励賞を受賞して』

20FF 黒田 淑子

現在私は、脳の性分化による形態的变化や、それに伴う行動の性差およびその分子機構の解明を目指しています。ラットやマウスでは、出生直後に分泌される性ホルモンの量や、母親の養育などの環境によって、成長後の行動に差が出ます。以前にある大学の先生から、「最初に入った研究室は、ずっとその後の研究生活に影響する」という話をきいて、非常に納得した事があります。

私は大学の卒業研究では、ヤツメウナギを用いましたが、修論ではブタ、博論では昆虫のカイコ、今はマウスを扱っております。そして研究分野も、下垂体内分泌からゲノム解析、行動・脳神経科学と次々に変わり、今は再び内分泌の仕事もしています。

私が水産利用学研究室（現海洋分子生物学研究室）の川内浩司教授（当時）のもとに籍をお



いていたのは、学部4年から修士課程を含めた3年間です。その3年間は、後の私の「研究行動」に重大な影響を及ぼしました。川内先生によって別の大学に里子に出されたため、私は水産学研究科に在籍しながら、哺乳類のブタを扱った修士論文を提出しました。現在の私の研究対象がコロナコ変わるという行動は、この三年間によって形成されたと考えられます。昨年、川内先生の紫綬褒章受章の記念祝賀会において、今までの世話になった利用学研究室の先生・先輩方にも、学位取得の報告やら、数年来の御無沙汰のお詫びやらをすませてホッといたしました。さらに、このような若手研究者奨励賞のご推薦をいただきました。本当に感謝しております。

『体育祭報告』

今年度の体育祭は、5月の13・14日に行われました。

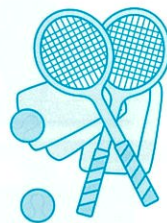
当日はあいにくの曇り空でしたが、今年の体育祭はどの競技も白熱し盛り上がりました。新2年生の参加が例年より少なかったため残念でしたが、ドッチボールでは2年生チームが2位に入賞し景品をもらって歓喜にわいていました。ソフトボールでは3年続けて出場し3連覇を成し遂げたチームもあり、大いに盛り上がりました。



『三水会助成金いただいて』

硬式庭球部 水産生物学科3年  
岩ヶ谷 耕司

この度は、三水会より助成金を頂きました誠にありがとうございます。現在私たち北里大学水産学部体育会硬式庭球部は大学院生2名、4年生5名、3年生3名、2年生5名で活動しています。4月から新しい代での部活がスタートしました。活動日は毎週月曜、水曜、木曜日で部員全員が厳しくも楽しい練習を行っています。練習内容は球出しからの練習や対人練習、また試合形式練習など技術向上を計った内容のある練習を行っています。



5月27、28日に盛岡の岩手県立大学で行われた岩手県学生選手権を勝ち抜き本線に進んだ選手がいるなどの躍進が見られました。

また、6月3日には弘前にて弘前大学との対抗戦が行われました。惜しくも負けてしまいました。私たちの部活にとつてまたとない良い経験となりました。また、前期の締めくくりであるインターカレッジが6月23、24日に弘前で行われました。男子は一回戦で負けてしまいました。女子は二回戦まで勝ち進むなど健闘が見られました。良い部分も悪い部分もこの大会では9、10月に行われるリーグへ向けてチームとしてまとまる重要なものでした。写真はその大会で撮ったものです。頂いた助成金はテニスをする上で必要な備品やその修理費などに使わせて頂きます。硬式庭球部を代表して心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

『太田先生を偲んで』

4 F F 伊藤 知尋

去る平成18年6月28日(水)  
午前10時34分

旧食品学科 水産利用学研究室教授の太田静行先生が永眠されました。享年81才でした。柔道3段の屈強な先生でしたが、病魔には勝てませんでした。お人柄どおり最後まで周りの方々や、教え子の事を気遣っておられたそうです。彼此30年程前の在学時代を思い起こせば、教員宿舎で大酒を飲んで研究室のみんなで騒いだ事。また、講義の「イカ燻たこ燻」の身体を振る独特のスタイルが、つい先程の様に思い出されます。晩年には、昨春秋に先生を囲む会に御出席頂き「また、来年も頼む」の一言が最後となりました。思い出は尽きませんが、先生のご冥福をお祈りしつつ筆を置かせて頂きます。本当に長い間有難うございました。



2003. 10月の太田先生を囲む会「赤坂・やげん亭」

# 見たい・知りたい・話したい

## ■第33回北里大学同窓会講演会のお知らせ

三水会では3年に一度開催します、講演会を今回は、水圏の「環境」をテーマに下記にて行います。又、講演会終了後の親睦会も含めどなたでも参加(無料)できます。希望の方は同封のハガキで申し込み下さい。

### 【講師】



水産微生物学研究室 小池 一彦 先生

講演題目『地球の未来を支える植物プランクトンたち』



海洋基礎生産学研究室 難波 信由 先生

講演題目『三陸の海と海藻』



水圏生態学研究室 朝日田 卓 先生

講演題目『丸い地球は誰のもの？～人間活動が水圏生態系に与える影響』

【開催日時】 平成18年10月22日(日)  
講演会:13:00～15:30  
親睦会:16:00～

【開催場所】 北里大学白金キャンパス  
講演会:薬学部コンベンションホール  
親睦会:本館1階学生食堂

【問い合わせ先】 三水会事務局 0120-873-135

### ～訃報のお知らせ～

平成18年6月21日に小原長俊さん(1983FF08026)が逝去されました。  
謹んでご冥福をお祈りします。

### 編集後記

今年は、長い梅雨と、雨の多い夏となりました。大変悲しい報告ですが、6月に利用学研究室元教授の太田先生がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。  
さて、水産学部では加戸先生と三水会の高橋先生が新しく教授になられました。そして、緒方先生が新学部長となり、いよいよ学部再編の動きも活発化してきているようです。新学部長からは、三水会に対して、非公式ながら、外部の意見や考えを取り入れていきたいという前向きでオープンな協力要請をいただきました。三水会といたしましては会員の皆様の経験と知恵をお借りしながら、新体制となった水産学部を応援していきたいと考えております。  
これからも皆様のご協力をお願い申し上げます。